

1

解答解説のページへ

四面体 $OABC$ において、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$, $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$ とおく。辺 OA の中点を D , 辺 AB を $2:1$ に内分する点を E , 辺 BC を $3:2$ に内分する点を F とする。また、実数 s に対し、点 G を $\overrightarrow{OG} = s\overrightarrow{OC}$ を満たす点とし、 $0 < t < 1$ である実数 t に対し、線分 GE を $t:(1-t)$ に内分する点を H とする。次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{OD} , \overrightarrow{OE} , \overrightarrow{OF} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表せ。
- (2) \overrightarrow{OH} を s , t , \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表せ。
- (3) 線分 DF と線分 GE が点 H で交わる時、 s , t の値を求め、 \overrightarrow{OH} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表せ。

2

解答解説のページへ

数列 $\{a_n\}$ を、初項 $a_1 = a$ 、公比 r の等比数列とし、この数列の初項から第 n 項までの和を S_n とする。次の問いに答えよ。

- (1) $a = 8$ 、 $r = 5$ のとき、 $S_k = 1248$ となる自然数 k を求めよ。
- (2) $a = 6$ で、ある自然数 k に対し、 $S_k = 378$ 、 $S_{2k} = 24570$ であるとき、公比 r と k を求めよ。
- (3) ある自然数 k に対し、 $a_k = 54$ 、 $S_k = 80$ 、 $S_{2k} = 6560$ であるとき、数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ。

3

解答解説のページへ

$f(x) = -x^2 + x + 1$, $g(x) = -x^3 + x + 1$ とする。座標平面において、点 $A(0, 1)$ は、2つの曲線 $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の共有点である。A と異なる、2つの曲線の共有点を B とする。また、 $p < 0$ とし、点 $(p, g(p))$ における $y = g(x)$ の接線を l とする。次の問いに答えよ。

- (1) 点 B の座標を求めよ。
- (2) $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の点 A での接線が一致することを示せ。
- (3) 直線 l の方程式を p を用いて表せ。また、 l が点 B を通るとき、 p の値を求めよ。
- (4) $x \geq 0$ のときは $y = f(x)$, $x < 0$ のときは $y = g(x)$ で表される曲線を C とする。

直線 l が点 B を通るとき、 l と曲線 C で囲まれた部分の面積を求めよ。

1

問題のページへ

(1) 四面体 OABC に対して、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$, $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$ とおくと、D は辺 OA の中点から、 $\overrightarrow{OD} = \frac{1}{2}\vec{a}$

E は AB を 2:1 に内分する点より、 $\overrightarrow{OE} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$

F は BC を 3:2 に内分する点より、 $\overrightarrow{OF} = \frac{2}{5}\vec{b} + \frac{3}{5}\vec{c}$

(2) $\overrightarrow{OG} = s\vec{c}$, H は線分 GE を $t:(1-t)$ に内分する点から、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OH} &= t\overrightarrow{OE} + (1-t)\overrightarrow{OG} = t\left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}\right) + (1-t)\cdot s\vec{c} \\ &= \frac{t}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}t\vec{b} + s(1-t)\vec{c} \cdots \cdots \text{①} \end{aligned}$$

(3) 線分 DF と線分 GE が点 H で交わるとき、 $DH:HF = r:(1-r)$ とおくと、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OH} &= (1-r)\overrightarrow{OD} + r\overrightarrow{OF} = (1-r)\cdot \frac{1}{2}\vec{a} + r\left(\frac{2}{5}\vec{b} + \frac{3}{5}\vec{c}\right) \\ &= \frac{1-r}{2}\vec{a} + \frac{2}{5}r\vec{b} + \frac{3}{5}r\vec{c} \cdots \cdots \text{②} \end{aligned}$$

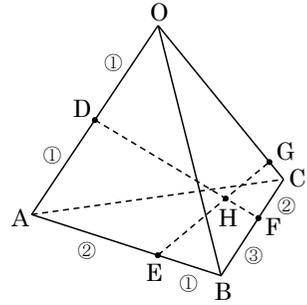
\vec{a} , \vec{b} , \vec{c} は 1 次独立なので、①②から、

$$\frac{t}{3} = \frac{1-r}{2} \cdots \cdots \text{③}, \quad \frac{2}{3}t = \frac{2}{5}r \cdots \cdots \text{④}, \quad s(1-t) = \frac{3}{5}r \cdots \cdots \text{⑤}$$

③④より、 $2 \cdot \frac{1-r}{2} = \frac{2}{5}r$ から $r = \frac{5}{7}$ となり、 $t = \frac{3}{2} \cdot \frac{2}{5} \cdot \frac{5}{7} = \frac{3}{7}$

⑤より、 $(1 - \frac{3}{7})s = \frac{3}{5} \cdot \frac{5}{7}$ から $s = \frac{3}{4}$ となり、①に代入すると、

$$\overrightarrow{OH} = \frac{1}{3} \cdot \frac{3}{7}\vec{a} + \frac{2}{3} \cdot \frac{3}{7}\vec{b} + \frac{3}{4} \cdot \frac{4}{7}\vec{c} = \frac{1}{7}\vec{a} + \frac{2}{7}\vec{b} + \frac{3}{7}\vec{c}$$



[解説]

四面体を題材にした空間ベクトルの基本題です。

2

問題のページへ

- (1) 初項
- $a = 8$
- 、公比
- $r = 5$
- の等比数列に対し、第
- k
- 項までの和
- $S_k = 1248$
- のとき、

$$\frac{8(5^k - 1)}{5 - 1} = 1248, \quad 2(5^k - 1) = 1248$$

すると、 $5^k = 624 + 1 = 625 = 5^4$ から $k = 4$ である。

- (2) 初項
- $a = 6$
- の等比数列に対し、
- $S_k = 378$
- 、
- $S_{2k} = 24570$
- のとき、公比
- $r \neq 1$
- から、

$$\frac{6(r^k - 1)}{r - 1} = 378 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad \frac{6(r^{2k} - 1)}{r - 1} = 24570 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} \text{より } \frac{r^k - 1}{r - 1} = 63 \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad \textcircled{2} \text{より } \frac{(r^k + 1)(r^k - 1)}{r - 1} = 4095 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

ここで、 $\textcircled{3}\textcircled{4}$ をまとめると、 $63(r^k + 1) = 4095$ 、 $r^k = 65 - 1 = 64$

すると、 $\textcircled{3}$ は $\frac{64 - 1}{r - 1} = 63$ となり、 $r - 1 = 1$ から $r = 2$ 、 $2^k = 64$ から $k = 6$ である。

- (3) 初項
- a
- 、公比
- r
- の等比数列に対し、
- $a_k = 54$
- から、
- $ar^{k-1} = 54 \cdots \cdots \textcircled{5}$

また、 $S_k = 80$ 、 $S_{2k} = 6560$ のとき、公比 $r \neq 1$ から、

$$\frac{a(r^k - 1)}{r - 1} = 80 \cdots \cdots \textcircled{6}, \quad \frac{a(r^k + 1)(r^k - 1)}{r - 1} = 6560 \cdots \cdots \textcircled{7}$$

$\textcircled{6}\textcircled{7}$ より、 $r^k + 1 = \frac{6560}{80} = 82$ から、 $r^k = 81$ となり、 $\textcircled{6}$ に代入すると、

$$a(81 - 1) = 80(r - 1), \quad a = r - 1 \cdots \cdots \textcircled{8}$$

また、 $\textcircled{5}$ は $ar^k = 54r$ となるので、 $81a = 54r$ すなわち $3a = 2r \cdots \cdots \textcircled{9}$

$\textcircled{8}\textcircled{9}$ から、 $3(r - 1) = 2r$ となり $r = 3$ 、 $a = 3 - 1 = 2$

したがって、等比数列 $\{a_n\}$ の一般項は、 $a_n = 2 \cdot 3^{n-1}$ である。

[解説]

等比数列の和に関する基本題です。連立方程式のまとめ方が問われています。

3

問題のページへ

(1) $f(x) = -x^2 + x + 1 = -\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{5}{4}$, $g(x) = -x^3 + x + 1$ に対して,

$$g'(x) = -3x^2 + 1$$

ここで、極小値 $g\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2}{9}\sqrt{3} + 1$,

極大値 $g\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{9}\sqrt{3} + 1$ となり、曲線

| | | | | | |
|---------|-----|-----------------------|-----|----------------------|-----|
| x | ... | $-\frac{1}{\sqrt{3}}$ | ... | $\frac{1}{\sqrt{3}}$ | ... |
| $g'(x)$ | - | 0 | + | 0 | - |
| $g(x)$ | ↘ | | ↗ | | ↘ |

$y = f(x)$ と $y = g(x)$ の概形は右図のようになる。

さて、 $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の $x \neq 0$ の共有点 B は、

$$-x^2 + x + 1 = -x^3 + x + 1, \quad x^3 - x^2 = 0$$

すると、 $x = 1$ から、 $B(1, 1)$ となる。

(2) $f'(x) = -2x + 1$ より $f'(0) = 1$ となり、また $g'(0) = 1$ から、 $f'(0) = g'(0)$ となる。

これより、点 A(0, 1) での $y = f(x)$ と $y = g(x)$ の接線の傾きは等しくなり、この 2 本の接線は一致する。

(3) $p < 0$ のとき、点 $(p, g(p))$ における $y = g(x)$ の接線 l の方程式は、

$$y - (-p^3 + p + 1) = (-3p^2 + 1)(x - p), \quad y = (-3p^2 + 1)x + 2p^3 + 1$$

直線 l が点 B を通るとき、 $1 = (-3p^2 + 1) + 2p^3 + 1$ から、

$$2p^3 - 3p^2 + 1 = 0, \quad (p - 1)^2(2p + 1) = 0$$

すると、 $p < 0$ から、 $p = -\frac{1}{2}$ である。

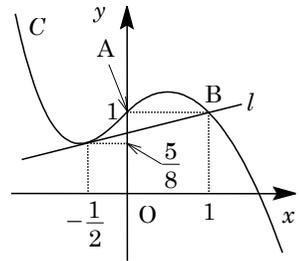
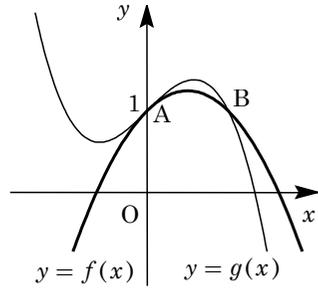
(4) (3) から、 $p = -\frac{1}{2}$ のとき、 $l: y = \frac{1}{4}x + \frac{3}{4}$ となる。

さて、曲線 $C: y = f(x)$ ($x \geq 0$), $y = g(x)$ ($x < 0$) と直線 l の概形は右図のようになり、 l と C で囲まれた部分の面積 S は、

$$S = \int_{-\frac{1}{2}}^0 g(x) dx + \int_0^1 f(x) dx - \frac{1}{2} \left(\frac{5}{8} + 1 \right) \left(1 + \frac{1}{2} \right)$$

$$= \int_{-\frac{1}{2}}^0 (-x^3 + x + 1) dx + \int_0^1 (-x^2 + x + 1) dx - \frac{39}{32}$$

$$= \left[-\frac{x^4}{4} + \frac{x^2}{2} + x \right]_{-\frac{1}{2}}^0 + \left[-\frac{x^3}{3} + \frac{x^2}{2} + x \right]_0^1 - \frac{39}{32} = \frac{25}{64} + \frac{7}{6} - \frac{39}{32} = \frac{65}{192}$$



[解説]

頻出タイプの微積分の総合問題です。ただ、(4)の数値計算はやや面倒ですが。